



2022年12月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2022年11月11日

上場会社名 株式会社リンクアンドモチベーション 上場取引所 東
 コード番号 2170 URL <https://www.lmi.ne.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 小笹 芳央
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 システムデザイン室担当 (氏名) 横山 博昭 TEL 03 (6853) 8111
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 2022年12月23日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第3四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	24,399	0.3	3,143	48.6	3,034	53.2	1,877	46.3	1,745	47.2	1,930	56.9
2021年12月期第3四半期	24,338	—	2,115	—	1,980	—	1,283	50.9	1,185	53.3	1,230	—

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第3四半期	15.64	15.64
2021年12月期第3四半期	11.30	11.30

(注) 2021年12月期末において、株式会社リンクエージェント(旧 株式会社リンクスタッフィング)の国内人材派遣事業を非継続事業に分類しております。これにより非継続事業からの利益は、要約四半期連結損益計算書上、継続事業と区分して表示しております。これに伴い、売上収益、営業利益、税引前利益は、継続事業の金額を表示しております。なお、2021年12月期第3四半期についても同様に組み替えて表示しているため、これらの項目の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2022年12月期第3四半期	27,494	9,983	8,695	31.6
2021年12月期	30,062	8,648	7,493	24.9

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	1.80	1.80	1.90	1.90	7.40
2022年12月期	1.90	1.90	1.90		
2022年12月期(予想)				2.00	7.70

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,000	7.2	4,000	93.6	2,200	115.6	2,050	123.1	19.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期3Q	113,068,000株	2021年12月期	113,068,000株
② 期末自己株式数	2022年12月期3Q	1,506,443株	2021年12月期	1,506,443株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期3Q	111,561,557株	2021年12月期3Q	104,922,204株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	7
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	7
(4) 今後の見通し	7
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	8
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	10
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	14
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	17
(重要な会計方針)	17
(重要な会計上の見積り及び判断に関する注記)	17
(継続企業の前提に関する注記)	17
(重要な後発事象)	17

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社グループは、子会社である株式会社リンクエージェント（旧 株式会社リンクスタッフィング）が運営する国内人材派遣事業に関して、2022年1月1日をもって株式会社iDAに譲渡したため、これらの事業を非継続事業に分類しております。このため、売上収益、売上総利益、営業利益については継続事業の金額を表示し、親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業の合算を表示しております。また、前年同期比較については、前年同期の数値を譲渡後の分類で組み替えた数値で比較しております。

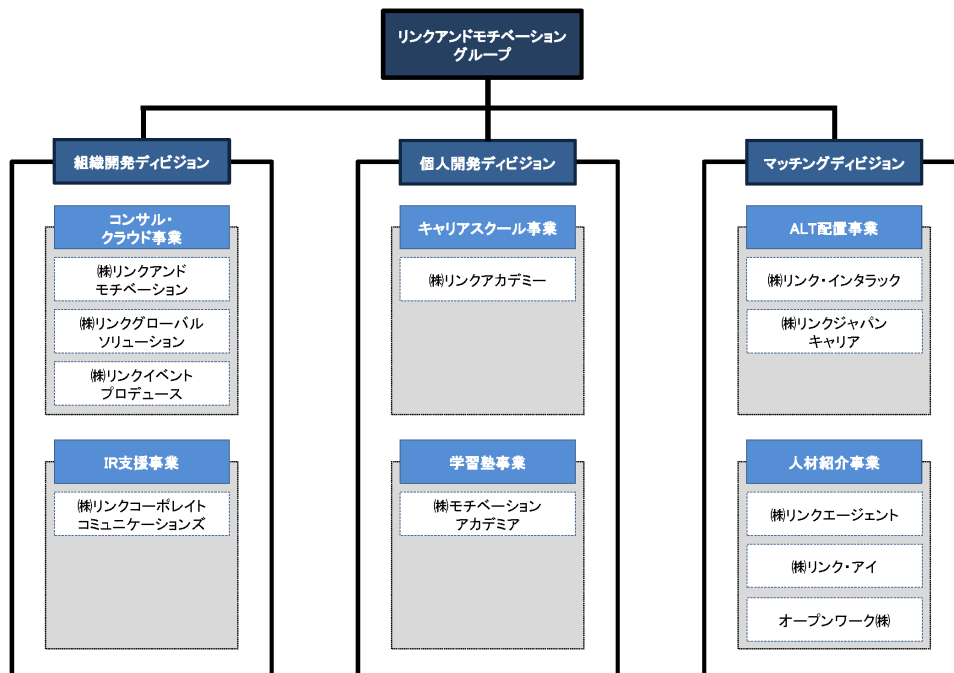
(1) 当期の経営成績の概況

当社グループは、「私たちは、モチベーションエンジニアリングによって、組織と個人に変革の機会を提供し、意味のあふれる社会を実現する」という企業理念のもと、心理学・行動経済学・社会システム論などを背景にした当社グループの基幹技術「モチベーションエンジニアリング」を用い、多くの企業と個人の変革をサポートしております。当第3四半期連結累計期間の日本経済は、ウィズコロナの新たな段階への移行が進む中で、緩やかに持ち直しの動きが続きました。一方で、ウクライナ情勢の深刻化や急速な円安の進行等から、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。このような環境下、企業において、変化に適応できる人材確保・育成の重要性、具体的には、従業員エンゲージメント（会社と従業員の相互理解・相思相愛度合い）向上のニーズや、デジタルトランスフォーメーション（以下、「DX」）に伴う個人のスキル強化のニーズはますます高まっていると認識しております。

このような経営環境下、当社グループの売上収益は24,399百万円（前年同期比100.3%）、売上総利益が12,070百万円（同104.4%）、営業利益が3,143百万円（同148.6%）、親会社の所有者に帰属する四半期利益が1,745百万円（同147.2%）となりました。

当社グループのセグメント区分と事業区分は次のとおりであり、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント・事業別の概況は以下のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、事業区分・事業名称を変更しており、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後の区分に組み替えた数値で比較しております。



※株式会社リンクスタッフィングは、2022年4月1日に株式会社リンクエージェントに社名変更いたしました。

《組織開発ディビジョン》

組織開発ディビジョンでは、社員のモチベーションを企業の成長エンジンとする会社を“モチベーションカンパニー”と定義して、“モチベーションカンパニー”を世に多く創出することを支援しております。具体的には、当社グループの基幹技術である“モチベーションエンジニアリング”を活用し、法人顧客を対象として、企業を取り巻くステークホルダー（社員・応募者・顧客・株主）のエンゲージメント向上を支援するサービスを提供しております。

当該セグメントでは、当第3四半期連結累計期間における売上収益は8,917百万円（同110.3%）、セグメント利益は6,128百万円（同107.2%）となりました。当第3四半期連結累計期間における事業別の概況は以下のとおりであります。

（コンサル・クラウド事業）

当該事業は、企業の“モチベーションカンパニー創り”に向けて、独自の診断フレームに基づいて従業員エンゲージメントを診断し、採用・育成・制度・風土など、組織人事に関わる変革ソリューションをワンストップで提供しております。また、クライアント企業自身が従業員エンゲージメントをマネジメントできるクラウドサービスとして、「モチベーションクラウドシリーズ」を展開しております。

当該事業における当第3四半期連結累計期間の売上収益は7,729百万円（同112.6%）、売上総利益は5,553百万円（同107.1%）となりました。なお、コンサル・クラウド事業のプロダクト別の業績は以下のとおりです。

〔表1〕プロダクト別売上収益推移

プロダクト（単位：百万円） ※〈 〉内は売上総利益	2021年 第3四半期	2022年 第3四半期	前年同期比
コンサル・クラウド事業	6,866 〈5,185〉	7,729 〈5,553〉	112.6% 107.1%
コンサルティング	4,746	5,125	108.0%
クラウド	2,120	2,603	122.8%

当第3四半期連結累計期間においては、コンサルティング、クラウドともに、大手企業の従業員エンゲージメント向上のニーズを着実に捉え、売上収益は前年同期比で大幅に増加、売上総利益は前年同期比で増加しました。従業員の生産性向上がさらに求められる昨今、従業員エンゲージメントの向上や人材開発のニーズはますます高まっております。また、2022年5月には、経済産業省より人的資本経営の実践について言及する「人材版伊藤レポート2.0」が公表され、8月には、内閣官房より「人的資本可視化指針」が公表される等、人的資本経営の実践やその情報開示への注目も高まっております。このようなニーズや外部環境の変化は、2000年の創業以来、多くの企業の組織変革を支援してきた当社グループにとって大きな機会であると捉えております。引き続き、新規顧客、特に大手企業への導入を推進し、顧客単価の向上及びさらなる成長を実現してまいります。

また、「クラウド」に該当する、当社グループの注力サービスである、「モチベーションクラウドシリーズ」の月会費売上は、前年同期と比較して大幅に増加しました。納品数及び月会費売上の推移は、以下のとおりです。

[表2] 「モチベーションクラウドシリーズ」納品数及び単月の月会費売上 四半期末毎の推移

	2021年				2022年		
	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月
納品数(件)	747	743	772	738	745	768	820
月会費売上(千円)	206,485	218,928	235,859	240,545	256,155	284,692	306,934

当社は、2000年の創業以来、企業と従業員のエンゲージメント状態を「診断」するだけでなく、「変革」まで支援してまいりました。「モチベーションクラウドシリーズ」は、従業員エンゲージメント向上を実現するHRTech(人材×テクノロジー)領域のクラウドサービスです。創業以来提供してきた組織診断サービスをクラウド化し、2016年7月よりサービス提供を開始いたしました。本シリーズは、現在、株式会社アイ・ティ・アールが発行する市場調査レポート「ITR Market View: 人材管理市場2022」において、従業員エンゲージメント市場のベンダー別売上金額シェアで5年連続1位(2017~2021年度予測)を獲得しております。

2022年12月単月におけるモチベーションクラウドシリーズの月会費売上は320,000千円(同133.0%)を見込んでおりますが、当第3四半期連結累計期間においては、継続して大手企業への導入推進が奏功し、2022年9月単月における月会費売上は306,934千円と順調に推移しております。

今後は、未だ開拓余地の大きい大手企業への導入推進に加えて、グローバル企業の現地法人や地方自治体への導入も推進してまいります。また、すでに納品実績のある人材開発サービスをクラウド化した「ストレッチクラウド」を2022年7月にリリースいたしました。モチベーションクラウドのノウハウを活かしながら、事業成長に資する人材育成をサポートし、5,000億円を超える人材育成市場において拡大を進めていく予定です。これらの成長戦略の実施によって、さらに成長を加速させ、従業員エンゲージメント市場を牽引してまいります。

(IR支援事業)

当該事業は、企業の“モチベーションカンパニー創り”に向けて、IR領域を中心に様々なメディアやイベントを通じて、企業のコーポレートブランディング構築をワンストップで支援しております。具体的には、株主・投資家向けの統合報告書などの紙メディアや、IRページ等のWEBメディア、商品説明映像や株主総会動画配信などの映像メディアに加えて、株主総会をはじめとするリアル・バーチャルにおける場創りを行っております。

当該事業における当第3四半期連結累計期間の売上収益は1,357百万円(同95.7%)、売上総利益は656百万円(同101.0%)となりました。なお、当該事業は単一プロダクトになります。

当第3四半期連結累計期間においては、非財務情報開示の複雑化、高難度化の影響で、統合報告書の発行タイミングの後ろ倒しが発生し、売上収益は前年同期比で減少となりました。一方で、動画制作の粗利率の改善に取り組んだことで、売上総利益は前年同期比で微増となりました。

今後は、非財務情報、特に「人的資本情報」の開示ニーズへのさらなる対応を進めていくとともに、「診断」「変革」の結果を「公表」という形でコンサル・クラウド事業ともシナジーを創出してまいります。

《個人開発ディビジョン》

個人開発ディビジョンでは、主体的・自立的に自らのキャリアや人生を切り拓く個人を“アイコンパニー(自分株式会社)”と定義して、“アイコンパニー”の輩出を支援しております。具体的には、当社グループの基幹技術である“モチベーションエンジニアリング”をキャリアスクール・学習塾等のビジネスに適用し、小学生から社会人までを対象に、目標設定から個人の課題把握、学習プランの策定・実行に至るまでワンストップでサービスを提供しております。

当該セグメントの当第3四半期連結累計期間における売上収益は5,360百万円(同94.7%)、セグメント利益は2,180百万円(同99.7%)となりました。当第3四半期連結累計期間における事業別の概況は以下のとおりであります。

(キャリアスクール事業)

当該事業は、大学生や社会人を主な対象とした、パソコンスクールの「AVIVA」、資格スクールの「DAIEI」、外国語スクールの「ロゼッタストーンラーニングセンター」、「ロゼッタストーンプレミアムクラブ」及び「ハミングバード」の5つのサービスブランドを掲げ、個人のキャリア向上を目的としたワンストップのサービスを提供しております。これまで、教室での受講を主としていましたが、現在は通学・オンラインの両サービスを提供し、継続的な学びのサポートを実現しております。

当該事業における当第3四半期連結累計期間の売上収益は4,857百万円(同93.3%)、売上総利益は1,961百万円(同99.1%)となりました。なお、キャリアスクール事業のプロダクト別の業績は以下のとおりです。

[表3] プロダクト別売上収益推移

プロダクト (単位:百万円) ※〈 〉内は売上総利益	2021年 第3四半期	2022年 第3四半期	前年同期比
キャリアスクール事業	5,206 〈1,978〉	4,857 〈1,961〉	93.3% 99.1%
IT	2,887	2,699	93.5%
資格	1,856	1,765	95.1%
英会話	462	392	84.9%

当第3四半期連結累計期間においては、BtoCサービスにて新型コロナウイルス感染症の影響が残り、売上収益は前年同期比で減少となりました。一方、利益率の高い企業内個人向けDX支援(BtoBサービス)は前年同期比135.8%と大幅に伸長し、売上総利益は前年同期比で微減となりました。

新型コロナウイルス感染症によって生活様式も大きく変化し、学びのニーズは対面からオンラインへと変化しています。今後の方針としては、BtoCサービスは、このようなニーズの変化に合わせ、全ての講座やサポートのオンライン提供を推進し、顧客価値の向上を図るとともに、校舎数を見直すことで固定費を削減し、事業効率の改善を図ります。企業内個人向けDX支援(BtoBサービス)は、DXやリスクキリングに対する企業ニーズが急拡大する中、今後はこれまで培ってきたITスキル支援のノウハウに加え、組織開発・マッチングディビジョンの顧客アセットも活用することで、さらなる成長を実現してまいります。

(学習塾事業)

当該事業は、一般的な学習塾と異なり、生徒の学力向上はもちろん、世に多くの“アイコンパニー”を輩出することを事業コンセプトに展開しております。サービス内容としては中高生向けの学習塾「モチベーションアカデミア」を展開しており、単なる受験指導にとどまらず、社会で活躍するためのスキル開発の場を提供しております。さらに、中学受験生を対象にした個別指導学習塾「SS-1」を展開しております。将来的には、当社グループのキャリアスクール事業が持つ「プログラミング教育」や「英会話教育」といったアセットも活用し、小学生から高校生まで一気通貫で社会に役立つスキル開発の場を提供することを目指してまいります。また、キャリアスクール事業同様、コロナ禍における生活様式の変化を受けて、現在は通学・オンラインの両サービスを提供しております。

当該事業における当第3四半期連結累計期間の売上収益は502百万円(同109.4%)、売上総利益は218百万円(同104.4%)となりました。なお、当該事業は単一プロダクトになります。

当第3四半期連結累計期間においては、受講者数の回復によって、売上収益、売上総利益ともに前年同期比で増加となりました。

今後も引き続き、オンラインでの授業や面談のさらなるクオリティ向上によって新規入会者数を伸長させ、安定的なサービスを提供するとともに、従来の学習塾には成し得ない小学生から高校生までワンストップのサービス実現を目指してまいります。

《マッチングディビジョン》

マッチングディビジョンでは、“エンゲージメント・マッチング”をコンセプトに、組織と個人をつなぐ機会を提供しております。具体的には、当社グループの基幹技術である“モチベーションエンジニアリング”を人材紹介や外国語指導講師(ALT: Assistant Language Teacher)派遣等のビジネスに適用し、企業や自治体が求めるスキル要件にとどまらず、当社が保有するデータをもとにした個人の特性とのマッチングをも行うことで、定着率の高いマッチングを実現しております。

当該セグメントの当第3四半期連結累計期間における売上収益は10,783百万円(同96.7%)、セグメント利益は4,341百万円(同103.9%)となりました。当第3四半期連結累計期間における事業別の概況は以下のとおりであります。

(ALT配置事業)

当該事業は、全国の小・中・高等学校の外国語指導講師(ALT: Assistant Language Teacher)の派遣及び英語指導の請負をサービスとして提供しております。また、顧客との信頼関係や実績が重視されるため、参入障壁が非常に高い本事業において、当社グループは民間企業で圧倒的なNo.1のシェアを確立しております。さらに、外国人雇用を促進したい企業に対して、外国人の採用・育成・労務サポートをワンストップで提供する事業を展開しております。

当該事業における当第3四半期連結累計期間の売上収益は8,901百万円(同92.3%)、売上総利益は2,494百万円(同92.2%)となりました。なお、当該事業は単一プロダクトになります。

当第3四半期連結累計期間においては、2022年10月からの社会保険加入対象の拡大に伴い、価格改定を実施した影響で、一部自治体において予定価格を超えたため入札に至らず、売上収益、売上総利益ともに前年同期比で減少となりました。

一方で、教員の英語授業準備効率化や英語力・指導力向上を目的として、2021年6月にリリースしたクラウドサービスである「Teachers Cloud」の利用学校数は着実に増加しております。利用学校数は、当第3四半期連結会計期間末で5,500校に到達しており、2024年には全国の公立の小・中・高等学校の約45%にあたる14,000校への提供を計画しています。引き続き「Teachers Cloud」を教育現場におけるインフラとして拡大し、ALT配置事業のシェア拡大を実現してまいります。

(人材紹介事業)

当該事業では、組織の成長において必要な人材を、人材紹介サービスという形で提供しております。主に、就職を希望している学生を企業の説明会や面接に接続させる新卒動員・紹介、そして、転職を希望している社会人を企業とマッチングさせる中途紹介を行っております。

当該事業における当第3四半期連結累計期間の売上収益は1,894百万円(同124.0%)、売上総利益は1,859百万円(同124.2%)となりました。

当第3四半期連結累計期間においては、特に成長率の高いオープンワーク株式会社にて、コロナ禍でも登録ユーザー数、社員クチコミ・評価スコアデータ件数を着実に積み上げております。中でもダイレクト採用サービスは、転職市場が活発化している中、売上収益は前年同期比約182%と大きく成長しております。

今後も引き続き、組織開発ディビジョンの顧客基盤の活用や転職候補者のレジユメの増加に加え、マッチング率向上を実現することで、組織と個人の真の相互理解・相思相愛を実現する「エンゲージメント・マッチング」を加速してまいります。

《ベンチャー・インキュベーション》

当社グループでは、各ディビジョンの他に、ベンチャー・インキュベーションを展開しております。ベンチャー・インキュベーションでは、出資に加え、当社グループの組織人事コンサルティングのノウハウなどを提供し、上場を目指す成長ベンチャー企業を組織面からも支援しております。出資先の主な選定基準は、①“モチベーションカンパニー”創りへの共感、②株式上場を目指していること、の2点です。なお、ベンチャー・インキュベーションにて発生した売却益等は、要約四半期連結財政状態計算書のその他の資本の構成要素、または要約四半期連結損益計算書のその他の収益・その他の費用に計上いたします。

(2) 当期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,568百万円減少し、27,494百万円となりました。これは主として、国内人材派遣事業の譲渡や東京統合拠点の移転に伴い、使用権資産が883百万円、その他の長期金融資産が648百万円減少、また、現金及び現金同等物が549百万円、営業債権及びその他の債権が480百万円減少したこと等によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ3,903百万円減少し、17,510百万円となりました。これは主として、営業債務及びその他の債務が718百万円、有利子負債及びその他の金融負債が877百万円、リース負債が1,391百万円減少したこと等によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の資本合計は、前連結会計年度末に比べ1,335百万円増加し、9,983百万円となりました。これは主として、剰余金の配当を実施した一方で、親会社の所有者に帰属する四半期利益を計上したこと等に伴い、利益剰余金が1,096百万円増加したこと等によるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当第3四半期連結累計期間において、現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は549百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末の残高は4,368百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において、営業活動により獲得した資金は前年同期より753百万円減少し、1,655百万円となりました。これは主として、税引前四半期利益が前年同期に比べ1,053百万円増加、営業債権及びその他の債権の増減が前年同期に比べ725百万円減少したことにより資金が増加した一方で、減価償却費及び償却費が前年同期に比べ971百万円減少、営業債務及びその他の債務の増減が前年同期に比べ330百万円減少、その他が前年同期に比べ473百万円減少、法人税等の還付額が前年同期に比べ436百万円減少、法人税等の支払額が前年同期に比べ377百万円増加したことにより資金が減少したこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において、投資活動により獲得した資金は212百万円となりました（前年同期は333百万円の使用）。これは主として、投資有価証券の売却による収入が前年同期に比べ512百万円減少したことにより資金が減少した一方で、事業譲渡による収入が441百万円発生したこと、敷金及び保証金の返還による収入が前年同期に比べ639百万円増加したことにより資金が増加したこと等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において、財務活動により使用した資金は前年同期より1,339百万円減少し、2,416百万円となりました。これは主として、短期借入金の純増減額が前年同期に比べ500百万円減少したことにより資金が減少した一方で、長期借入れによる収入が前年同期に比べ894百万円増加、リース負債の返済による支出が前年同期に比べ549百万円減少したこと、前年同期に発生した非支配持分からの子会社持分取得による支出が無かったことにより資金が増加したこと等によるものです。

(4) 今後の見通し

当第3四半期連結累計期間においては、国内人材派遣事業の譲渡やオフィス移転等の構造改革に加えて、キャリアアスクール事業の校舎移転・撤退を推進したことで、営業利益は前年比で大幅に増加し、筋肉質な経営体制へと進化しました。2022年12月期の業績は、過去最高となる営業利益4,000百万円（前年比193.6%）を見込んでおります。

中期的には、組織開発ディビジョンを主軸に、組織開発ディビジョンとシナジーのある事業を成長させていく方針です。2022年5月には、経済産業省より人的資本経営の実践について言及する「人材版伊藤レポート2.0」が公表され、8月には、内閣官房より「人的資本可視化指針」が公表される等、人的資本経営の実践やその情報開示への注目も高まっております。人的資本経営の推進の支援がさらに求められるとともに、人的資本情報の開示の促進に際して、企業がより良い自社の情報を開示するためにも従業員エンゲージメント向上のニーズは拡大することが想定され、特に組織開発ディビジョンのコンサル・クラウド事業の追い風となると考えています。引き続き、人的資本経営ニーズの強い大手企業を中心に診断・変革ソリューションをワンストップで提供すると同時に、「ストレッチクラウド」を含むクラウドサービスをも展開することで、2023年以降の加速度的な成長を目指してまいります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	4,917	4,368
営業債権及びその他の債権	3,851	3,371
棚卸資産	200	272
その他の短期金融資産	9	15
その他の流動資産	753	945
流動資産合計	9,732	8,972
非流動資産		
有形固定資産	637	593
使用权資産	4,149	3,266
のれん	9,410	9,410
無形資産	2,234	2,364
その他の長期金融資産	2,744	2,096
繰延税金資産	984	712
その他の非流動資産	168	79
非流動資産合計	20,329	18,521
資産合計	30,062	27,494

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	2,094	1,375
契約負債	1,615	1,448
有利子負債及びその他の金融負債	7,161	6,195
リース負債	1,079	854
未払法人所得税	716	493
引当金	274	137
その他の流動負債	2,075	1,679
流動負債合計	15,018	12,186
非流動負債		
有利子負債及びその他の金融負債	1,716	1,805
リース負債	3,929	2,763
引当金	359	319
繰延税金負債	256	307
その他の非流動負債	134	128
非流動負債合計	6,395	5,324
負債合計	21,413	17,510
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	1,380	1,380
資本剰余金	3,879	3,879
自己株式	△320	△320
利益剰余金	4,406	5,503
その他の資本の構成要素	△1,853	△1,747
親会社の所有者に帰属する持分合計	7,493	8,695
非支配持分	1,154	1,287
資本合計	8,648	9,983
負債及び資本合計	30,062	27,494

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

要約四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
継続事業		
売上収益	24,338	24,399
売上原価	12,781	12,329
売上総利益	11,557	12,070
販売費及び一般管理費	9,323	9,464
その他の収益	55	776
その他の費用	173	238
営業利益	2,115	3,143
金融収益	12	20
金融費用	147	129
税引前四半期利益	1,980	3,034
法人所得税費用	690	1,062
継続事業からの四半期利益	1,290	1,971
非継続事業		
非継続事業からの四半期損失(△)	△6	△93
四半期利益	1,283	1,877
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	1,185	1,745
非支配持分	97	132
四半期利益	1,283	1,877
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益 (△損失)		(単位：円)
基本的1株当たり四半期利益(△損失)		
継続事業	11.36	16.48
非継続事業	△0.07	△0.84
基本的1株当たり四半期利益(△損失)	11.30	15.64
希薄化後1株当たり四半期利益(△損失)		
継続事業	11.36	16.48
非継続事業	△0.07	△0.84
希薄化後1株当たり四半期利益(△損失)	11.30	15.64

第3四半期連結会計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
継続事業		
売上収益	7,939	7,633
売上原価	4,359	4,035
売上総利益	3,579	3,598
販売費及び一般管理費	2,956	3,037
その他の収益	26	647
その他の費用	37	34
営業利益	611	1,173
金融収益	10	11
金融費用	60	30
税引前四半期利益	562	1,154
法人所得税費用	185	276
継続事業からの四半期利益	376	878
非継続事業		
非継続事業からの四半期利益(△損失)	1	△1
四半期利益	377	877
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	350	837
非支配持分	27	40
四半期利益	377	877
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益 (△損失)		(単位：円)
基本的1株当たり四半期利益(△損失)		
継続事業	3.33	7.51
非継続事業	0.01	△0.01
基本的1株当たり四半期利益(△損失)	3.34	7.50
希薄化後1株当たり四半期利益(△損失)		
継続事業	3.33	7.51
非継続事業	0.01	△0.01
希薄化後1株当たり四半期利益(△損失)	3.34	7.50

要約四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
四半期利益	1,283	1,877
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産	△56	62
純損益に振り替えられることのない項目合計	△56	62
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	3	△10
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	3	△10
その他の包括利益合計	△52	52
四半期包括利益合計	1,230	1,930
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	1,132	1,797
非支配持分	97	132
四半期包括利益	1,230	1,930

第3四半期連結会計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
四半期利益	377	877
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産	△89	78
純損益に振り替えられることのない項目合計	△89	78
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△0	△3
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	△0	△3
その他の包括利益合計	△89	75
四半期包括利益合計	288	952
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	260	912
非支配持分	27	40
四半期包括利益	288	952

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	親会社の所有者に帰属する持分合計		
2021年1月1日残高	1,380	1,855	△1,733	3,989	△1,731	3,760	1,157	4,917
四半期利益	—	—	—	1,185	—	1,185	97	1,283
その他の包括利益	—	—	—	—	△52	△52	—	△52
四半期包括利益合計	—	—	—	1,185	△52	1,132	97	1,230
支配継続子会社に対する持分変動	—	△649	—	—	—	△649	△103	△753
剰余金の配当	—	—	—	△566	—	△566	—	△566
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	120	△120	—	—	—
所有者との取引額合計	—	△649	—	△446	△120	△1,216	△103	△1,320
2021年9月30日残高	1,380	1,206	△1,733	4,728	△1,904	3,676	1,151	4,827

当第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	親会社の所有者に帰属する持分合計		
2022年1月1日残高	1,380	3,879	△320	4,406	△1,853	7,493	1,154	8,648
四半期利益	—	—	—	1,745	—	1,745	132	1,877
その他の包括利益	—	—	—	—	52	52	—	52
四半期包括利益合計	—	—	—	1,745	52	1,797	132	1,930
剰余金の配当	—	—	—	△635	—	△635	—	△635
株式報酬取引	—	—	—	—	40	40	—	40
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	△12	12	—	—	—
所有者との取引額合計	—	—	—	△648	53	△594	—	△594
2022年9月30日残高	1,380	3,879	△320	5,503	△1,747	8,695	1,287	9,983

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	1,980	3,034
非継続事業からの税引前四半期利益 (△損失)	△18	19
減価償却費及び償却費	2,263	1,291
減損損失	122	160
事業譲渡関連損益 (△は益)	—	△50
固定資産売却損益 (△は益)	△0	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	20
保険解約益	△8	—
金融収益及び金融費用	135	109
営業債権及びその他の債権の増減 (△は増加)	△244	481
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△72	△72
営業債務及びその他の債務の増減 (△は減少)	△413	△743
その他	△802	△1,276
小計	2,940	2,975
利息及び配当金の受取額	0	5
利息の支払額	△137	△115
法人税等の還付額	439	2
法人税等の支払額	△835	△1,212
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,408	1,655
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△155	△71
有形固定資産の売却による収入	0	—
無形資産の取得による支出	△655	△693
事業譲渡による収入	—	441
投資有価証券の取得による支出	—	△79
投資有価証券の売却による収入	513	1
敷金及び保証金の差入による支出	△272	△22
敷金及び保証金の返還による収入	284	924
資産除去債務の履行による支出	△137	△282
保険解約による収入	85	—
その他	3	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△333	212

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△500
長期借入れによる収入	506	1,400
長期借入金の返済による支出	△1,486	△1,777
非支配持分からの子会社持分取得による支出	△753	—
配当金の支払額	△567	△634
リース負債の返済による支出	△1,454	△904
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,755	△2,416
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,676	△549
現金及び現金同等物の期首残高	6,449	4,917
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,773	4,368

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(重要な会計方針)

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積平均年次実効税率を用いて算定しております。

(重要な会計上の見積り及び判断に関する注記)

要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行っております。会計上の見積りの結果は、実際の結果とは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直されます。会計上の見積りの見直しによる影響は、その見積りを見直した会計期間と将来の会計期間において認識されます。

本要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)」に重要な変更はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。